

池田学園 SSH インタビュー

地道な努力と結束力で新現象を 発見したスーパー高校生。



右から順に萩元綾さん、高橋真さん、桑木喜一郎さん、神之蘭匠真さん

池田学園が 取り組む「SSH」。

私立池田高校が取り組んでいる「Super Science Highschool以下SSH」は、理科や数学、英語に特化した特別教育カリキュラム。その試みは、文系理系に関わらず、高校生全員が現在12ある研究班に所属して研究活動を行い、学内外で開催される研究発表会で結果を発表するというもの。「SSH」では、大勢の前でプレゼンしたり、大学の教授にアドバイスを仰いだり、はるかに離れた海外でフィールドワークを行うこともある。

そう、いずれも普段の授業では経験することのできない、まさに大学レベルの実践型カリキュラムである。また、研究は常に生徒主導で行われるため、自ずと積極性や忍耐



力、発想力などが身につ き、メンタル面の成長にも 一役買っているようだ。こ れまでに同校の生徒たち は、県内外の大会で数々 の輝かしい成績を収めて きた。彼らは高校のレベ ルを遥かに超えた3年に 及ぶ「SSH」の研究活 動をどのように感じてい るのだろうか。2013 年、高校2年生のときに 錯視の一種である「フビ ナ色」の研究において 新現象を発見し、九州 高校理科学徒研究発表 大会において優勝を果 たした桑木喜一郎さん、 神之蘭匠真さん、高橋 真さん、萩元綾さんの4 人に話を伺った。

昼休みも放課後も 研究に没頭。

彼らは「矛盾」の研究を
する目的で集まったチー
ムだ。研究を進める中で



彼らはベナムの独楽こまに出会う。これは白と黒の模様を描かれた独楽のことで、これを回転させたとき、白黒以外の色を帯びた「フビナ色」と呼ばれる光源が見えるのだという。彼らが発見したのは「フビナ色」とは異なる放射線状の光源。先例がなく論文を発表したところ、新現象と認められ、「高橋真さん、神之蘭匠真さん」と名づけられた。そんな実績だけを聞きと華々しい印象を受けるが、その陰には彼らのたゆまぬ努力があった。「僕らの研究はデータ収集がメインなので、すごく地味なんです。生物班が離島へフィールドワークに行く中、自分たちは教室でひたすら独楽を回してデータを取っていたんですから」と彼は笑う。「SSH」の活動は基本的には月に1度だが、彼らは

昼休みや放課後にマメに集まってデータを収集したそう。「寝るときに独楽の残像が映ることもありました」と桑木さんは当時を振り返る。

誰もが発言しやすい 関係を築く。

彼らが制作した独楽のサンプルは100を優に超える。独楽の模様のアイデアを出し、回転数を変えながらそのすべてを検証するのは、発想力と根気のいる作業だ。でも、「つらいと思ったことはない」と全員が口を揃える。研究過程でリーダーの桑木さんは、メンバーをまとめないよう求められる研究だけに、誰もが意見しやすい雰囲気が大切だからだ。新現象の第1発見者である高橋さんも「もしこのメンバーじゃなかったら、自分の勘違いだったらすみません」と語る。彼が自分の意見を飲み込んでいたが、新現象の発見はなかった。彼らの結束力とどっつきばらん関係性が、研究にとって最も重要なポイントだったのだ。

子どもの疑問に 答えられる大人に。

研究を通じて彼らが発見したものは、新現象の発見という功績だけではない。身の回りの些細な現象にも興味をわくわくするようになったという。彼ら「幼い子どもが抱く『空はなぜ青いの？』といった疑問にしっかりと答えられる大人になりたい」と桑木さん。神之蘭さんは、自分で自分の限界を決めないことの大切さを学ん



実は、彼らが発見した現象の原理はまだ解明されていない。「原理を解明できなかつたこととは、でも心残り。だからこそ、僕らの研究を引き継いだ後輩たちが解明してくれたい」と新現象の第1発見者、高橋さんは語る。先輩から後輩へ託されたすきは、いつかさとゴールに辿り着くだろう。その日を楽しみに、彼らはこの春からそれぞれ新たな道を歩き始める。

